

評価計画			アンケート															
経営目標	経営目標の重点	具体的な取組	教職員の評価項目				保護者の評価項目				生徒の評価項目				No	R5	R6	R7
1. 授業づくり	確かな学力の育成	・主体的な学びを育てる授業づくりに向けた授業改善	・江東中3ステップを意識した授業改善に取り組んでいる。	No	R5	R6	R7	・学校は追究したくなる課題や粘り強く取り組む必要のある宿題を出し、生徒の学力育成に取り組んでいる。	No	R5	R6	R7	・授業ではめあて（ねらい）が示されている。	No	R5	R6	R7	
			・思考力・判断力・表現力を生かし、提案力を身に付けた生徒の育成に取り組んでいる。	1	(B)	(B)	A	・学校は生徒一人一人の学習内容の定着度を把握しながら授業を進めている。	1	(B)	(B)	B	・生徒同士で話し合う活動をとおり、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	2	(B)	(B)	A	
			・生徒の実態に応じた課題の設定や支援を行い、生徒の学ぶ意欲を高めている。	2		(A)	B	・学校は生徒一人一人の学習内容の定着度を把握しながら授業を進めている。	2		(A)	A	・授業は楽しい。	3				B
			・基礎学力の定着と学習習慣の確立	3	(B)	(B)	A	・お子様は家庭での学習習慣が身に付いている。	3			C	・授業ではめあてに対する振り返りを行っている。	4	(B)	(B)	B	
	・江津市GIGAスクール構想に沿ったICT機器の活用	4			A	・タブレットを利用した宿題への取組をうながしている。	4			A	・家庭学習は平均して、平日は1時間以上行っている。	5				D		
道徳教育	・道徳科を要とした道徳性の育成	・「考え、議論する」道徳をはじめ、学校の教育活動全般をとおり、生徒がよりよく生きるための基盤となる道徳性の育成に取り組んでいる。	5			A	・学校は教育活動をとおり、生徒の道徳性（生命を大切にすることや他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識等）を高める働きかけを行っている。	5			A	・学校図書館などの本を活用した授業が行われている。	7				D	
2. 複数担任制	集団づくり	・複数担任制を活用した集団づくり	・複数担任が互いに連携しながら、生徒の人間関係や集団の課題に対して一貫した支援を行っている。	6			A	・複数の先生が連携して、子どもたちの人間関係や集団での過ごし方について丁寧に支援し、家庭と連携している。	6			A	・学校にはいろいろな先生がいて、自分のことをわかってくれる先生がいる。	9				B
			・複数担任制により、生徒が複数の教員と関係を築きやすくなり、安心して集団の中で過ごせるようになっている。	7			A	・複数の先生が関わることで、子どもが安心して学校生活を送り、友だちとの関係づくりに前向きに取り組んでいる。	7			A	・学校の先生は協力して、みんなが仲良く安心して生活できるようにできるようにしてくれている。	10				A
	人権・同和教育	・人権感覚や人権意識の高揚を図る ・生徒理解を基本とした生徒指導 ・自他ともに尊重できる豊かな心の育成	・「多様性の尊重」や「進路保障」の考え方を意識して生徒指導や人権教育に取り組んでいる。	8	(A)	(A)	A	・学校は人権意識を高め、人権を守り、人権を大切にすることをやっている。	8	(A)	(A)	A	・人権の大切さについて学習したり、考えたりする機会がある。	11	(A)	(A)		A
			・生徒一人一人の背景を意識した生徒指導に取り組んでいる。	9	(A)	(A)	A	・学校は生徒一人ひとりの特徴やもち味を踏まえた指導を行っている。	9	(A)	(A)	A	・学校の先生は生徒の話聞いてくれる。	12	(A)	(A)		A
			・互いの人格を尊重し、思いやりのある生徒の育成に向けた取組を行っている。	10	(A)	(A)	A	・学校は思いやりをもって生徒の育成に取り組んでいる。	10	(A)	(A)	A	・相手の気持ちを考え、思いやりの心をもって相手を尊重している。	13	(A)	(A)		B
	身体づくり	・体力の向上を意識した部活動 ・メディアコントロールウィークを通じた生活習慣の形成	・部活動指導に関わり、生徒のすこやかな心と身体づくりに貢献している。	11			A	・学校は生徒の体力などに配慮しながら部活動に取り組んでいる。	11			B	・部活動に意欲的に参加し、自己鍛錬をめざしている。	14				B
			・「メディアコントロールウィーク」の結果を生徒への声かけ（指導・支援）に活かしている。	12	(B)	(A)	C	・お子様は「テレビや電子メディアは1日1時間以内」が達成できるよう、意識して生活している。	12	(B)	(A)	D	・午後9時以降はメールやゲームをしないようにしている。	15	(B)	(A)		D
			・全国学力調査意識調査の結果を日常の指導に活かしている。	13	(B)	(A)	B	・お子様はよりよい生活習慣を意識しながら家庭で生活している。	13	(B)	(A)	C	・「早寝・早起き・朝ごはん」「質のよい学びと眠り」など、望ましい生活習慣を身に付けようとしている。	16	(B)	(A)		C
	特別活動	・生徒会活動の充実をとおりした社会参画意識の高揚 ・感動体験や自己有用感を得られる活動の充実と創造	・生徒の願いや意思を尊重した生徒会活動になるよう支援している。	14	(A)	(B)	A	・生徒会の活動には、生徒のアイデアが反映されている。	14	(A)	(B)	A	・生徒会の話し合いでは、生徒会のスローガンに基づいた意見を積極的に発表している。	17	(A)	(B)		B
			・行事や体験活動をとおり生徒の自己有用感を高めたり、感動できたりする場の設定に心掛けている。	15	(A)	(A)	A	・学校は生徒に感動や自分は貢献できているという実感を味わわせる活動を行っている。	15	(A)	(A)	A	・諸活動や行事をとおり感動したり、自分は周りの人に役立っていると感じたりすることができている。	18	(A)	(A)		C
			・学校として、特別な支援の必要な生徒の実態を把握しきめ細かな支援を行っている。	16	(A)	(A)	A	・学校は生徒一人ひとりの困り感を把握し、それを解消するための手だてを講じている。	16	(A)	(A)	B	・お互いを認め、それぞれに学び方がることを理解し、尊重している。	19	(A)	(A)		B
			・障がいや個々の生徒の特性について理解し、指導や支援に活かしている。	17	(A)	(A)	A	・学校は一人ひとりを大切に、様々な価値観に触れる授業を行っている。	17	(A)	(A)	A	・朝・終礼や授業などで、人はそれぞれ違いがあることを学ぶ場面がある。	20	(A)	(A)		A
	3. 学校運営協議会	開かれた学校	・地域とともにある学校、地域に支えられた学校をめざした連携	・学校として、家庭や地域に情報を発信するとともに保護者や地域の方の意見を受け止めている。	18	(A)	(A)	A	・学校の教職員は保護者の話を聴く姿勢がある。	18	(A)	(A)	A	・地域や学校・家庭で関わってくださる方に感謝の心をもって毎日を過ごすことができている。	21	(A)	(A)	
・広報活動として学校だよりや学級通信等を活用し、積極的に学校や生徒の様子を地域に発信している。				19	(A)	(A)	A	・学校は学校便りや学級通信、ホームページ等を活用し、学校や生徒の様子を地域に発信している。	19	(A)	(A)	A	・学校便りや学級通信等で地域や保護者に向けて、自分たちの活動や学校の様子を伝えて感じている。	22	(A)	(A)		B
総合的な学習の時間		・探究的で協働的な「総合的な学習の時間」の充実 ・地域社会や世界に関わろうとする意欲の涵養	・生徒の学習活動が探究的になるよう努めている。	20	(A)	(A)	B	・学校では「発見」「地域課題の考察・提案」などにつながる学習が行われている。	20	(A)	(A)	A	・総合的な学習の時間では課題に向かって、個人探究活動に取り組むことができている。	23	(A)	(A)		B
	・一人ひとりの生徒の社会的・職業的自立に向けた取組を行っている。		21	(A)	(A)	B	・学校は、生徒が自らの将来について考える機会を設定している。	21	(A)	(A)	B	・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	24	(A)	(A)		C	
学校関係者評価より	○家庭学習につながるメディアやICTとの結びつきを考えてみては。 ○図書館活用については、社会科学系本を取り入れ、できるだけ本を使った探究活動を行ってほしい。 ○講演会等を利用し、様々な価値観に触れさせてほしい。		○生成AIも話題に上がる中、メディアに触れないようするには、今の社会情勢からは難しいように思う。他校と連携し、取組や情報交換を行ってもよいと思う。 ○幸福感を感じられる活動を増やしてほしい。否定から入らず、「ありがとう」を伝えあえる人間関係の育成に力を注いでほしい。				○お祭りや運動会等、地域の行事が減ったことが、関心なくなる要因の一つかもしれない。学校で総合的な学習の時間で地域再建について学習していると知った。今後は学んだことをつなげる活動をしてほしい。											
改善計画	1. 授業づくり 生徒4 ○各教科教員が毎時間めあてを提示し、それに対して生徒自身に振り返らせる振り返りを行う。振り返りは、自己の学習を振り返り今後の学習の見通しを持たせるもの、自己の学習を調整させるものにする。また、それを適切に評価する。「3・めあてに対する振り返り」について、教職員間で目標を合わせるためのミニ研修を行う。 保護者3、生徒5 ○各教科で生徒を家庭学習に向かわせるための課題を出す。または、学年部で自学ノート等の課題に取り組ませる。例：小テストの実施。定期的な自学ノートの確認。予習の効力を感じられる授業構成（予習と授業の連動） 生徒7 ○各教科で書籍を活用した課題を設定する。ICT活用教育に合わせて、正しく情報を取り出す練習をする。※国語科で国語辞典を使って毎月数回程度意味調べを行っているが、生徒にとって学校図書館の活用とは結び付いていない。		2. 複数担任制 教職員12、保護者12、生徒15 ○メディアコントロールの結果を教職員で早めに共有し、生徒・保護者への指導や啓発を行う。メディア接触時間の目標等、具体的な目標を保護者と共有し協力を仰ぐ。 職員15、保護者15、生徒18 ○生徒会活動が主体的な活動になるよう目標や活動計画を設定していく。（より自治的な活動にする）諸活動や各行事でお互いに頑張ったことや友達に協力してもらってうれしかったことなどを、個人の振り返りだけでなく伝え合う活動を設定する。				・学校運営協議会 生徒24 ○総合的な学習の時間に関する質問なので、「総合的な学習の時間で、自分の住む地域についての学習や地域で働く体験をとおり、地域への関心が高まった。」とすると生徒はイメージをもちやすくなり、肯定的な評価が増えるのではないかと。 教職員21、保護者21 ○課題探究学習では、発表で終わりではなく、発表から次の課題を設定する。それにより発表から課題設定という探究のサイクルを作り、学年に応じた課題探究の力をつけていくことができるように活動内容を見直す。 ○職業調べや上級学校調べを3学期に行うことが多いが、2学期から行うと、生徒の将来について考える機会を増やすことができる。また、ふるさと学習とも関連させて、これからの生き方を考える学びを深めていくことが期待できる。教育相談や期末面談でも話題にすることができる。											